

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第3区分
 【発行日】平成24年6月7日(2012.6.7)

【公開番号】特開2010-260899(P2010-260899A)
 【公開日】平成22年11月18日(2010.11.18)
 【年通号数】公開・登録公報2010-046
 【出願番号】特願2009-110692(P2009-110692)
 【国際特許分類】

C 0 8 L 67/04 (2006.01)

C 0 8 J 5/00 (2006.01)

C 0 8 L 101/16 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 67/04 Z B P

C 0 8 J 5/00

C 0 8 L 101/16

【手続補正書】

【提出日】平成24年4月13日(2012.4.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ポリ-L-乳酸とポリ-D-乳酸を含むポリ乳酸系組成物からなり、厚さ1ミリメートルのサンプル成形体とし、温度80～180において10分間の熱処理を行った後のヘイズが10%以下であることを特徴とする成形体用材料。

【請求項2】

DSC測定における150～200の範囲にある吸熱ピークの最大吸熱ピーク(ピーク1)と205～240の範囲にある吸熱ピークの最大吸熱ピーク(ピーク2)とのピーク比(ピーク1/ピーク2)が0.05以下であるポリ-L-乳酸とポリ-D-乳酸を含むポリ乳酸系組成物からなることを特徴とする請求項1記載の成形体用材料。

【請求項3】

DSC測定における205～240の範囲にある吸熱ピークの吸熱量が50J/g以上であるポリ-L-乳酸とポリ-D-乳酸を含むポリ乳酸系組成物からなることを特徴とする請求項1または2に記載の成形体用材料。

【請求項4】

DSC測定において250で10分経過した後の降温(cooling)時(10/分)のピークが40J/g以上であるポリ-L-乳酸とポリ-D-乳酸を含むポリ乳酸系組成物からなることを特徴とする請求項1乃至3のいずれかに記載の成形体用材料。

【請求項5】

可塑剤が1～15%の割合で配合されてなることを特徴とする請求項1乃至4のいずれかに記載の成形体用材料。

【請求項6】

請求項1乃至5のいずれかに記載の成形体用材料からなることを特徴とする透明性、耐熱性に優れた成形体。

【請求項7】

ポリ-L-乳酸とポリ-D-乳酸からなるステレオコンプレックス構造体を有し、請求項

1乃至5のいずれかに記載の成形体用材料または請求項6に記載の成形体をペレット化または粉碎してなることを特徴とする結晶核用材料。